

平成 27 年度国立大雪青少年交流の家第 1 回施設業務運営委員会管理運営部会議事要旨

日時：平成 27 年 5 月 29 日（金）13:30～15:30

場所：国立大雪青少年交流の家 ミーティングルーム

運 営 委 員 出 席 者：笠井委員長，瀬川委員（部会長），西海委員，服部委員，片岡委員 計 5 名

欠 席 者：松本委員 計 1 名

国立大雪青少年交流の家出席者：阿部所長，穴澤次長，秋山管理係長，宮崎管理係員，三田総務係員 計 5 名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間，資料確認，欠席委員報告及び管理運営部会交代職員の紹介後，部会長による議事進行。

○部会長

審議事項等確認後，議題 1 より審議開始。

○部会長

平成 27 年度管理運営部会審議事項について，事務局から説明をお願いしたい。

●事務局

平成 27 年度の管理運営部会計画については主たる計画として昨年度に引き続き 4 点について審議を進めていく。1 点目は受益者負担の適正化として講師室使用料の検討に關すること。2 点目は適正な人員配置及び優秀な非常勤職員人材の確保に關すること。3 点目は施設設備の老朽化に伴う長期計画（施設マスタープラン）の策定に關すること。4 点目は 50 周年記念事業に向けた事業計画等に關することとしている。

なお，資料 3 については管理運営部会及び横断チームの今後の開催予定資料となっている。

○部会長

ただいま事務局より説明のあった審議事項のうち，受益者負担の適正化，50 周年記念事業の準備については慎重かつスピーディーな検討を進める必要がある。

続けて，議題 2 の講師棟施設使用料の導入について，資料に基づき事務局から説明をお願いしたい。

●事務局

資料 4 に基づき説明する。受益者負担の適正化の一つとして国の施策により自己収入を上げる努力が必要とされているところである。2 月の委員会において資料をお配りしていたところであるが，内部で更に検討を進めた結果，前回は導入を平成 28 年 4 月としていたが利用団体等への十分な周知期間をおく必要があることから平成 28 年 10 月から導入したいと考えている。

なお，大雪においては，全国の交流の家の中でも収入が最も少ない施設であり，講師棟の料金を徴収していない施設は大雪を含め全国で 3 施設のみとなっている。

また，徴収料金についても前回は 800 円としていたがアメニティグッズやタオルセットを充実させ，

一人一泊毎に 1,200 円を徴収としたいと考えている。料金設定にあたっては基準額 800 円に機構の計算式を元に算出した加算額を加えた額が徴収料金となる。アメニティの設置及び清掃に係る人件費等のコストを試算したところ 536 円となり、試算コストが 200 円から 599 円の範囲内であれば加算額は 400 円となる計算になっている。徴収単位は一人一泊を単位で徴収することとしたい。

○部会長

本件については有料化ということもあり事務局において慎重に進めていただいているところである。その点を踏まえ意見・質問をいただきたい。

□委員

利用していただく皆さんに相応した額を設定する必要がある。1,200 円は妥当と感じる。

ただし、経営者の立場からすると試算コストが 536 円で 200 円から 599 円の範囲内であれば加算額が 400 円となり、実質 136 円損失することとなる。アメニティ等を更にプラスワンして 1,600 円に引き上げても良いと思うが施設として 1,200 円が妥当だと判断したのであれば良いと思う。

□委員

ゼロからのスタートと考えれば徴収料金の中位である 1,200 円を設定することは原価計算を含め適正だと思う。

□委員

料金設定の根拠についてしっかりと積み上げされた試算となっている。利用者への説明や妥当性を考えれば 1,200 円が妥当と感じる。

○部会長

本件は 1,200 円の徴収料金として導入を進めていく。導入にあたり 1 年間の利用者への周知期間を持たせ平成 28 年 10 月からとして手続きを進めることとする。

冒頭、事務局より説明があったが、講師棟の料金を徴収している施設の方が多いことなどを踏まえると必要なものについては受益者負担していただくのは原則と感じる。

□委員

了解

○部会長

議題 3 の 50 周年記念事業の準備について審議を行う。いよいよ来年 10 月に迎える「開所 50 周年記念事業」の実施に際し、今年度は準備を加速して進める必要がある。一大イベントとなる式典当日及び前後に開催する記念事業には今年度から本格実施となった「新しい公共」の観点から地域との連携・協力の下に準備を進める必要がある。施設業務運営委員の皆様からも準備に参画いただく必要があることから資料に基づき事務局より説明をお願いしたい。

●事務局

議題 3 について、資料 5 から資料 11 を基に記念事業の計画、寄附金に関すること、イメージキャラクターの募集、50 周年記念事業実行委員会の設立の大きく 4 点に分けて審議いただきたい。

記念事業については、昨年より多くの意見をいただき、北海道青年団体協議会青年大会、全道高齢

者大学移動学園祭，北海道産業高校の祭典，体験の風をおこそう全道フォーラム，青少年のための火山防災フォーラムの５点のイベントに絞り込み誘致の調整や検討を進めている。

なお，体験活動フォーラムでは記念講演として北海道出身の体験活動に関わる著名な方を呼んで講演会も検討している。資料６については事業全体のスケジュール案となっている。

○部会長

ただいまの事務局からの説明について意見・質問をいただきたい。

□委員

記念事業のイベント規模はどの程度を予定しているのか。

●事務局

青年団体協議会は概ね 100 名から 150 名程度，その他は現在調整中である。

□委員

いずれにしても大雪の施設で全て受入可能な規模ということでよいか。

●事務局

良い。現段階では大まかな予定ではあるが，高齢者大学移動学園祭は 1 団体 20 名程度の規模で 10 団体から 20 団体が参加いただければ目的を達成できる。産業高校の祭典は道内に 10 校程度の農業・水産高校があり，平成 15 年頃に近隣の富良野や旭川の高校から 5 校から 6 校きていただいた実績がある。私立高校にも一部農業科を持っている学校があるため，窓口を通して全体へ周知していきたいと考えている。

●事務局

体験の風及び火山防災フォーラムについては，概ね 200 名から 300 名規模を考えている。

□委員

白金地区の旅館関係は宿泊対応の協力は現在のところないという考えでよいか。

●事務局

現在のところ当施設で対応できる範囲内の規模を想定しているため，宿泊対応の協力は無いものとして考えていただいてよい。

□委員

火山防災フォーラムについて，美瑛町と上富良野町で現在ジオパークの認定に向け取り組んでいる。十勝岳の大正噴火から 90 年の節目の年を迎えることから両町に協議をいただき，共催事業の検討など内容の良いフォーラムにしていきたい。

□委員

高齢者のイベントは施設としての裾野を広げる意味も踏まえとても良い切り口であると感じる。

□委員

高齢者大学は基本的に自主運営を行っているため、早い段階で情報提供し計画していただかなければ難しい運営形態となっている。案内だけでも早めに周知すると良い。

また、演芸など皆さんの前で発表する機会となればとても皆さん一生懸命準備してくれる。

□委員

防災フォーラムについて、十勝岳のレベル引き上げや引き下げの影響もあり、風評被害を少なからず感じている。火山と共存し歴史を育んだ経験を活かした安全対策を講じているというフォーラムの結びにしていきたい。

○部会長

富良野の高齢者大学では演劇に取り組んでおり、今年は富良野の演劇祭に参加してみようかという気運が高まっているところであり、活躍の場を提供していただければ嬉しく思う。

産業高校の祭典の対象には高等専門学校は入っているのか伺いたい。

●事務局

高等専門学校も対象として考えている。

○部会長

続いて、寄附金について事務局より説明をお願いしたい。

●事務局

寄附金については、資料7及び資料8のとおり計画している。

なお、企業から寄附をいただくにあたり寄附に対するメリットが必要という意見もいただいております。50周年の記念誌、定期発行の広報誌、封筒などに企業広告の枠を設け購入いただくことを検討している。

また、寄附の依頼に企業訪問する際は施設の利用促進も含め行っていきたいと考えている。

○部会長

ただいまの事務局からの説明について意見・質問をいただきたい。

□委員

宣伝広告費とするのか寄附とするのか整理しておく必要がある。

また、寄附をいただいた企業名や個人名を施設内へ掲示することも検討されているようだが、掲示する期間は一時的なものか。

●事務局

掲示する期間は一時的なものを考えている。

□委員

企業や個人へ寄附を求める際に1口いくらといった形で基準を定めた方が寄附をする側も協力しやすいと感じる。

また、寄附を受け入れるスケジュールを伺いたい。

●事務局

依頼については本会議終了後から動き出し、寄附は今年度から受入れ次年度へ繰り越す形となる。

□委員

個人の寄附であれば町内のイベントなどで寄附を募るのも一つの方法であると感じる。

また、先ほどの意見にもあったように1口の金額設定や最低（上限）額を決め進めた方が良い。

□委員

美瑛町に協力を仰ぎ、ふるさと納税制度の活用を持ちかけてみてはどうか。制度を活用できるかについては確認する必要がある。

○部会長

企業広告については、掲載する媒体は多く存在する。広告掲載の可否も含め機構本部へ確認を行い、積極的に動いていただきたいと感じる。

引き続き、3点目のイメージキャラクターの募集について事務局より説明をお願いしたい。

●事務局

資料10のとおり50周年記念事業の一環としてイメージキャラクター募集を計画している。募集は公募として、道内公立小・中学校、中等教育学校（前期課程）、特別支援学校（小学部・中学部）、高等学校から一人一作品としたい。応募期間は平成27年11月30日までとして、選定を平成27年度末までに進め、来年度の4月以降に発表し、式典で表彰式を考えている。

また、募集にあたり北海道教育委員会に協力いただけるように調整しており、実際に子供たちへ届く募集資料については子供向けの分かりやすいものとする予定である。

□委員

着ぐるみの作成に予算40万で足りるのか。

●事務局

あくまでも選定等に要する経費として、着ぐるみに要する費用は計上していない。

○部会長

今後、グッズ販売等を視野に入れるのであればデザイン等について商品化できる業者を集めデザインコンペを行った方が形になった際に良いものを作ることができる。

是非、多くの方の意見をいただいて決定していただきたい。

□委員

イメージキャラクターの発表は式典で行うのか先行発表するのかを決めておいた方が良い。

○部会長

いただいた意見を元に修正等を加えイメージキャラクターの公募について、今後、事務局において進めさせていただく。委員の皆様からも関係各位へ広報いただければ幸いである。

4点目、50周年記念事業実行委員会の設立について事務局より説明をお願いしたい。

●事務局

資料 11 のとおり開所 50 周年記念事業実行委員会の設置（案）を作成したのでご意見いただきたい。

なお、組織の位置づけとして、実行委員会で計画等の内容確認及び最終的な決定を行い、交流の家の所内委員会と施設業務運営委員会の管理運営部会が協働して実行する形としている。

また、実行委員会の設立を 9 月としていることから設立以前に決定した事項については準備等を進めさせていただきたいと考えている。

□委員

参考程度としていただきたいが運輸、建設、農協などの関係団体にも協力いただくと良いと感じる。

○部会長

その他の事項について事務局から資料に基づき説明をお願いしたい。

●事務局

資料12については平成27年度の予算が確定したことに伴う報告資料となっている。概ね人件費・管理経費・事業費ともに昨年度ベースで予算措置されている。

資料13については平成27年度の施設の改修・修繕要望一覧として機構本部に提出しているものであり、網掛け部分については、既に工事が決まっているものである。

○部会長

ただいまの事務局からの説明について意見・質問をいただきたい。

○委員

特になし。

○部会長

本日準備した審議事項については以上となります。本日いただいた意見に基づき、修正すべき点については修正し、進めさせていただく。

会議終了，閉会挨拶，閉会宣言